

## 平成二十四年度理事会議事録概要

1 開催日 平成二十四年七月三日(火)午後一時から三時三十分

2 開催場所 協会 四階講堂

3 理事出席数 十五名中、出席十二名

4 監事出席数 二名中、出席一名

5 議長の氏名 小野裕会長

6 議案

第1号議案 規程の一部改正について

第2号議案 無鑑査認定について

第3号議案 協会の今後の運営について

7 理事会の議事の経過の要領及び結果

定款の規定に基づき、小野会長が議長となり、定足数を確認し、本会議の成立を宣言した。

森弘次理事ご逝去の報告があり、黙祷を捧げた。のち議案の審議に入った。

第1号議案 規程の一部改正について

柴原専務理事から「会計処理規程」の一部改正について、平成二十三年度までは収支ベースで作成していたが、公益財団法人に移行したことから、会計処理も損益ベースで作成することになり、公認会計士の指導を受けて作成したことなどの説明があった。

次に「刀剣博物館事業規程」については、「新作名刀展」及び「刀剣研磨・外装技術入賞作品展」を今後有料化になるため条文を削除したことなどの説明があり、全員異議なく了承された。

第2号議案 無鑑査認定について

専務理事より、資料に基づき、研師である吉田宗都氏は無鑑査認定基準を満たしたこと無鑑査認定の承認をもとめ、第2号議案は異議なく了承された。

第3号議案 協会の今後の運営について

会長から昨今の刀剣業界の厳しい現状の報告があった。

協会職員の十二月の期末・勤勉手当について、国家公務員に準ずると既定されているが、事業損益に見合ったものにする必要がないか、職員に提案している。今後話し合いを続けていきたいとの提案があり承認された。

次に会長から事業活動の活性化に向けて意見を出してほしいとの発言があり、「刀剣美術」の充実等の意見が出た。

また公立博物館に協力団体から刀剣展(赤羽刀の展示等)開催を働きかけることについて、協会から支援協力する等の文書を出すことにより、働きかけやすくなることなど、会長から説明があった。

さらに鑑賞会のあり方について、鑑定競技中心から鑑賞・研究など、活動方針の転換が協議され、承認された。今まで名刀にこだわりすぎていたのではないかとという反省があり、今後は郷土刀など埋もれた刀工の発掘などが肝要であるとの提案が了承された。他に現代刀匠への助成、支部独自の活動のための環境作りを推進する等の話し合いがもたれた。

予算措置については、収益を上げ得る努力をし、また経費削減の努力により捻出可能との発言があり、刀剣界の発展のための良い環境作りを構築したい、との発言があった。

また専務理事から、全国大会を来年度開催したい旨の発言があり、了承され、期日は平成二十五年十月二十六日(土)(全日)・二十七日(日)(午前半日)に決定した。

## 8 報告事項

① 定例鑑賞会実施要綱(内規)について

公益財団法人移行により、会員のみならず、一般にも広く門戸を開くために協会鑑賞会のためのマナー講座を開設することになり、作成した要綱について飯田学芸部長から説明があった。

② 協力団体の認定

会長より現在の協力団体が七十七団体になったことの報告があった。移行前の時点で支部は七十六支部であり、今回一支部が解散し、三団体が新規に立ち上げられたことが報告された。

以上をもって議案の審議を終了し、散会した。